

令和6年度 学校評価報告

草加市立 栄 中学校
(令和7年2月1日作成)

1 学校教育目標	
○校訓 「自主」「自律」「親和」「協力」 ○学校教育目標 ・自ら学び考え、行動する生徒 ・豊かな心を持ち、思いやりのある生徒 ・健康で、たくましい生徒 ○目指す学校像 ・一人一人がかげがえのない存在として大切にされる学校 ・人権や生命が尊重されお互いを認め合う「いいとこ探し」の学校 ・生徒が「通いたい」保護者・地域が「通わせたい」学校	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
○幼保小中一貫教育の推進 ○地域と共にある学校づくりの推進 ○学年・学級経営の充実 ○学習指導の充実 ○豊かな心を育む指導の充実 ○積極的な生徒指導・教育相談の推進 ○健康な体づくりの推進 ○特別支援教育の推進	成果 ○いじめ防止対策委員会を計画的に実施し、認知・対応・見届けまで組織的に対応できた。 ○管理職・衛生推進者と連携し、会議室・研修室・職員室等の整備等、職場環境を整えられた。 課題 ●生徒が進んで「爽やかなあいさつができる栄中」

4 評価表 ※評価基準 [A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	○学校教育目標・グラントデザインに沿って、組織的な連携のもと、適切に校務分掌を配し運営できた。 ●業務量や難易度に応じて、校務分掌の担当を配置し、負担の均一化を図る。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	○研究発表に向け、小中合同研修、いのちの学習を計画的に実施できた。 ●教職員の資質向上に向けた校内研修の内容を検討し、年間を通して計画的に実施する。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	A	○避難・防災訓練や避難所設営訓練を通して、地域と連携しながら緊急事態発生時の対応への取組ができた。 ○全学年で計画的にいのちの学習を実施できた。 ●いのちの学習の時間を、年間を通して計画的に組み、内容を全体で共有する。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	○年度当初に校内の情報管理規定を全体で確認し、情報機器と個人情報の管理を行った。 ●ネットモラルの授業・集会等を計画的に実施する。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	○PTAと連携し、学校行事を成功させることができた。避難所設営市民防災訓練や学校運営協議会を通して、地域との連携を深めた。 ●HPの更新や、校外行事での進行状況発信など、情報の発信に更に取り組む。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	A	○幼保小中一貫教育推進委員会を計画的に実施し、校区一体となって研究発表できた。 ●継続的な取り組みと、よりよい幼保小中連携のあり方について、更に推進委員会で検討する。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<p>○学校教育目標の達成度について、教職員・保護者・生徒とも「当てはまる」「よく当てはまる」が8割以上であった。</p> <p>●各教科と連携し、授業時数と進捗状況を把握し、計画的に教育計画を作成する。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<p>○指導訪問・授業研究会・研修を通して学校全体として自己肯定感・自己有用感の向上を目指す授業改善を実施した。</p> <p>●教科会を計画的に実施し、評価方法や効果的な実践等を共有する。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<p>○全学年、発達段階の応じたいのちの学習を計画的に実施できた。</p> <p>●学年の道徳主任を中心に、ローテーション道徳を通じて教職員の資質向上を図る。</p>
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	B	<p>○運動会や合唱コンクール等の学校行事についての話し合い活動が実施できた。</p> <p>●各学年で計画的に学級活動を実施し、集団としての話し合いを実践する。</p>
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<p>○避難所設営市民防災訓練やいのちの学習を通して、地域の人材を活用することができた。</p> <p>●PTAやボランティアセンターと連携し、地域との関わりを通じた教育活動を推進する。</p>
	⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導部会や教育相談部会、いじめ防止対策委員会を計画的に実施し、生徒指導上の問題に組織的に対応できた。</p> <p>●不登校傾向生徒への、教育支援を更に充実させる。</p>
	⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	<p>○継続して卒業生と進路について語る会を実施し、身近な進路としての上級学校について理解を深めることができた。</p> <p>●職場体験活動の再開に向け、全体計画を立てる。</p>
	⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<p>○行事や兄弟学級への授業参加を通して、個に応じた充実した支援が展開できた。</p> <p>●相談員・養護教諭・SC・SSWと一層の連携を図りつつ、支援を充実させていく。</p>
	⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	A	<p>○学校司書、司書教諭と連携し、読書量向上の取り組みを実施した。</p> <p>●行事計画と図書館開館日程を確認し、生徒が利用しやすい環境作りを行う。</p>
	⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<p>○タブレットを授業内で積極的に活用し、生徒の充実した学習につなげることができた。</p> <p>●情報モラルの向上や情報管理の徹底に向け、学校全体として取り組む。</p>
	⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<p>○人権作文、標語の作成に加え、校内研修を通して人権への意識喚起を行った。</p> <p>●校内研修を通して、日常における生徒との接し方を通じた人権感覚の育成に取り組む。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①地域に開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 外部人材の活用 保護者との連携 関係諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会を計画的に実施し、建設的な意見を聞くことができた。 ○PTA役員会を通して、制服リサイクルや行事への参加等、連携を深めることができた。 ●HP等の内容をさらに充実させ、効果的な周知に努める。
	②幼保小中一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> 15年間の系統的教育の実施 異校種間交流の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○幼保小中一貫教育推進委員会を計画的に開催した。また小中連携で挨拶運動や読み聞かせを実施し、交流を進めることができた。 幼保連携の一貫として、3年生が保育園児のどんぐり拾いの補助に取り組んだ。
	③自己肯定感・有用感を高める教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業等での計画的な実施 互いを認めあうことのできる学級づくり、諸活動の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の自己評価で、自己肯定感に関わる肯定的な回答が80%を上回っている。 ●研究発表が終了した後も、自己肯定感・自己有用感・他者理解を意識した授業づくり、調査・研究を実施していく。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

○研究発表に向け、学校全体として研究テーマや具体的な目標について共通理解を図り、自己肯定感・自己有用感を育む授業を実践することができた。

○タブレット端末・大型ディスプレイを積極的に活用した授業を展開し、フォームによる生徒の回答の集約や提示等、より効率的な学びを実践することができた。

○いじめ防止対策委員会と生徒指導委員会を計画的に実施し、いじめの認知・対応・見届けまでを組織的に取り組むことができた。

○教育相談における支援が必要な生徒について、教育相談部会や学年会を通して丁寧な情報共有し、さわやか相談員・SC・SSWとの連携を深めながら個々の状況に応じた対応を行った。

○準備委員会を通して校務分掌の内容を精査し、業務量や難易度に応じた区分けを行い、その共通理解のもとで担当者を決定し、業務負担の偏りの是正に取り組んだ。

6 次年度の改善策

●校務分掌における業務量や難易度に応じた区分けをさらに進め、分担は前年度の担当者が極力残るように全体で共通理解を図ったうえで決定する。

●研究発表後のより良い幼保小中連携に向け、推進委員会等を積極的に活用する。

●学校生活アンケートや教育相談期間等を有効活用し、相談員・SC・SSWとの連携を深めながら個々の状況に応じた教育相談対応を実践する。

●朝清掃等の機会を活かして、学校全体の衛生環境をさらに向上させる。専門委員会と連携し、生徒自身の清掃・点検といった主体的な活動を推進する。

●学校における生徒の取組や発信すべき情報について、学校便り・保健便り・ホームページの更新等で積極的に発信する。学年ごとの取組については、学年便りを通して生徒の活動状況を発信していく。

●本校の教職員・生徒の挨拶の向上に加え、小中連携あいさつ運動等を通して、晃区全体として進んであいさつができる雰囲気を醸成する。